



## 小中一貫教育だより

学校教育課・教育センター版

平成30年1月31日 No.5

(小中一貫教育推進だよりから 通算No.76)

十日町市教育委員会学校教育課



いじめ見逃しゼロスクール集会 ※裏表紙で説明

## 学校が楽しいと感じられるように

学校教育課 課長補佐 田村英明

8月の合同職員研修では不登校の解消に向けて自己有用感が大切という講演がありました。9月29日発行の「つながるNo.3」の巻頭言、事業の紹介で詳しく書かれていますので内容についてはここでは割愛しますが、自己有用感が大切という話を聞いていて、どこかで聞いたような覚えがあり、思い出したのがある研修の内容でした。

職員研修でメンタルヘルスについての講義を受けたのですが、メンタルヘルスの観点からみた良好な職場とは「承認欲求」を満たし、「帰属意識」をもてる環境であるというものでした。

「承認欲求」とは他人から認められたいと思うことで、自分の行いやその成果をほめられ認められることで満たされるもの。

「帰属意識」とは自分には居場所があると感じる意識、自分がその集団に属しているという意識で、周りの人と意思疎通を図りながら行動することで芽生えるもの。

これを学校に置き換えると、友達や先生にほめられ、認められていると感じ、この学校に、このクラスに居たいと思えること、一言で言うならば「学校が楽しい」ということが子どもにとっていい環境であると言えるのではないのでしょうか。

平成29年度の小中一貫アンケートでは1.2%の子どもが「学校が楽しくない」と回答しています。人数にすると43人で昨年度の73人と比べて減少傾向にあります。一人でも多くの子どもが学校を楽しみと思えるようになり、不登校が減っていくようにご協力をお願いいたします。

## 不登校状況 小学校で増加傾向、中学校で減少傾向に～

平成 29 年 12 月末現在の不登校状況（欠席数 30 日以上の子どもの数）について、28 年度同時期との比較から、次のような傾向が見えました。

**「小学校 保健室登校等が増加」「中学校 昨年度より減少」**

まだまだ予断を許さない状況ですが、特に中学校においては新規不登校になる子どもが大きく減少していることが顕著です。このことは、各中学校で不登校の未然防止に向けた取組を真摯に受け止め、組織的に推進していただいた成果と考えます。

今後も子どもたちの小さな変化に目を向けていただき、気になる子どもへはきめ細やかに組織としてスピード感をもった対応を進めていただきたいこと、そのために「不登校予防のための早期対応マニュアル」の積極的な活用をお願いします。

## 学校訪問【学力】で多くを学びました～ありがとうございました～

中越・中学校区計画訪問、市教委計画訪問・要請訪問等で、各校の授業の取組を拝見し、多くを学ばせていただきました。市内で見られた研究授業を通して、授業改善に向けた取組の一端を紹介いたします。（これは、小中一貫教育計画訪問の際にも情報提供しています。）



### (1) 児童と授業者の良好な人間関係、互いの意見や考えを尊重し合う学級風土づくりを！

好ましい人間関係の醸成は学級経営上不可欠な要素です。人間観関係が安定することにより、ペア学習や全体での発表が成立している授業が見られました。分かる授業づくりのベースとして、良好な人間関係、学級づくりを大切にしてください。

### (2) 興味・関心を高める導入、課題提示の工夫を！

小学校算数では、「かける君からの挑戦」というストーリーを設定した課題提示の工夫、ICT機器で間違いを提示し、既習事項を確認しつつ本題に入っていく導入の工夫、小学校国語では、2文を比較させる課題を提示することで良い表現に気づかせる工夫…など、児童の興味・関心を高める課題提示は、その後の児童の追究意欲につながっていました。



### (3) 教科横断的なカリキュラムマネジメントを！

生活科と国語科を合科的な扱いで進めることで、児童の目的意識や「やりたい」という意欲を高める単元構成の工夫が見られました。それも複数校の研究授業で公開されました。カリキュラムマネジメントは、新学習指導要領のキーワードの一つでもあります。この視点で年間指導計画の見直しを進めていけるとよいと思います。

### (4) 「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善～授業者自身のアクティブラーニングを！

「児童の意識を踏まえた課題提示→対話による練り合い→自分の考えの変容を振り返る」、「個人追求→ペアでの説明→全体発表」…など、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業提案、協議が多くの学校で見られました。



ある協議会では、小グループに分かれて協議の視点が書かれた罫線入りの大洋紙に、授業者の展開での取組をプラスとマイナスの両面で活発に意見を交わしながら記述し、授業者の授業を自分の実践のように厳しく見つめて発言する教職員の姿も見られ、感心しました。研究授業を通して、日々の授業改善に真摯に取り組もうとする姿勢が大切であることを学びました。

#### (5) 中学校区での小中学校間の連携～独自の連携の工夫・強化を！

「課題」「まとめ・振り返り」の提示（板書計画）、学習規律の共通化、家庭学習やメディアコントロールを含む生活習慣改善の取組など、各中学校区では実態に応じた共通実践が進められています。また、小学校の指導案検討に中学校職員が参加する中学校区、近隣の保育所、高校、隣接中学校区の職員へ授業参観、協議会の参加を案内し実施する中学校区、中学校区独自で市教委計画訪問日に第2回学力向上対策会議を開き情報交換・共有を図る中学校区など、積極的な取組姿勢に感謝しています。



## 新学習指導要領の実施に向けて～準備は進んでいますか？

H30.4月から 小学校「特別の教科 道徳」が始まります。

全体計画 …「小学校学習指導要領解説 総則編」(P127～) 参照

年間指導計画 …「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(P70～)、サンプルあり

別葉 …「小学校学習指導要領解説 総則編」(P130)、サンプルあり

※年間指導計画、別葉のサンプルデータ、資料は、「教育系センターサーバ edfsv01→h29→03\_共有→★小学校「特別の教科 道徳」資料」フォルダ内にあります。

※小学校道徳教科書（学図）の研修用見本は、小学校各校に配付済みです。

H30.4月から 小学校外国語活動 移行措置が始まります。

15時間の位置付け…例示済みです。保護者への周知もお忘れなく。

指導計画 …1/26(金)、2/20(火) 小学校外国語研修でサンプルを提示します。

やる気 …子どもたちのためにプラス思考で向かっていきましょう。

※各種資料、教材データ等は、「教育系センターサーバ edfsv01→h29→03\_共有→★小学校外国語・外国語活動 平成30年度使用教材」フォルダ内にあります。

## まつのやま学園、小中一貫教育小規模校全国サミット参加～

まつのやま学園では、11月に奈良県田原市で開催された小規模校全国サミットに参加しました。サミット参加を通じてまつのやま学園から次の感想が寄せられました。

「本サミットの参加校は、全校児童生徒が100人前後の小規模校です。人間関係の固定化、限定されやすい部活動等の設置、教職員数が少ないために生じる人員配置の問題など、小規模校としてのデメリットは、どの学校も課題としていました。小中一貫校になることで、これらの課題解決の糸口を見付けようと考えている市町村もありました。

小中一貫校としての13年間の取組をしてきた田原小中学校の取組や子どもたちの姿を見ながら、小中一貫自体が目的なのではなく「小中一貫を目的達成の手段とすること」が

大切だと感じました。小中が一貫になること自体が目的になってしまうと、取組への不安や疑問が生じたり、形式的に小中がつながっただけになってしまうたりします。育てたい子ども像を共有し、小中の教員が教育観を相互理解し、専門性を生かしながら授業改善していくことが大切であると改めて感じました。当学園でも何のための小中一貫なのかを全職員で共通理解し、施設一体型の利点を生かした教育活動を展開していきたいです。」

## 保幼小接続カリキュラムの整備を進めます～

12月15日(金)、千手コミセンにおいて、『保幼小連携合同研修会』を開催しました。昨年度から引き続き上教大大学院・木村吉彦教授を講師にお迎えして、保育園関係者・小学校関係者合わせて約90名が参加しました。木村教授からは、保幼小連携の重要性や、保幼小接続カリキュラム(アプローチ・カリキュラム、スタート・カリキュラム)の整備の必要性等、法律や保育指針、学習指導要領にも触れながら懇切丁寧に指導していただきました。保育園・こども園関係者と小学校関係者が顔を揃えるせっかくの機会でしたが、交流できる時間が設けられなかったのは反省です。今後も保幼小の連携強化が一層進むよう、研修内容の充実を図っていきます。

## 年10回の特別支援教育研修を終了しました～

1月19日(金)、見附市立見附特別支援学校教頭・稲田真砂美先生を講師にお迎えして、川西庁舎で「どの子にもわかる・できる授業 ～授業のユニバーサルデザイン～」と題し、講義していただきました。ユニバーサルデザインに基づいた豊富な実践・高い識見に裏付けられた指導を受けた参加者からは、「日常の指導・支援にすぐに生かせる内容で大変良かった」「よい授業はユニバーサルデザイン化されているという言葉が強く印象に残った」「今日の研修講座を聞いて、分かりやすい指示、肯定的な指示が出せるようにしていこうと思った」「UDLについてもっと稲田先生の話を知りたい」など、参加者の課題解決につながる貴重なご指導をいただいたことに感謝の声が多く寄せられました。特別支援教育公開講座2回を含め、年10回の特別支援教育に係る今年度の研修会が今回をもって終了しました。来年度も実践力向上に役立つ充実した研修会を開催できるように努めます。

## 学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～2・3月～

日程	内容【会場】	備考
2月15日(木)	中学校国語科担当者会議【千手コミセン】	講師：中越教育事務所・上村指導主事
2月20日(火)	移行措置に係る小学校外国語研修② 【川西庁舎】	講師：市教育センター・小林囑託指導主事
	外国語担当者会議【川西庁舎】	外国語研修後実施
3月1日(木)	若手サポート閉講式【川西庁舎】	
3月7日(水)	不登校対策研修会③【川西庁舎】	講師：新潟大学大学院 神村教授
3月12日(月)	小中一貫教育連絡協議会【川西庁舎】	第3回目の小中一貫教育連絡協議会

### 【表紙の説明】

松代中学校区で行われた、いじめ見逃しゼロスクール集会。いじめ問題の絵本をプロジェクターで写しながら朗読し、緊迫感を持たせた演出を行いました。その後は、グループで討議をしながら解決策などを話し合いました。